

---

# 無明ヒクチラスウィドッワー

会知

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

無明ヒクチラスウイドツワー

### 【Nコード】

N3130Y

### 【作者名】

会知

### 【あらすじ】

間違い探し文字遊びです。

(前書き)

頑張って書きました！よかったらどうぞ！

「あの。」

「はい。」

「私には、あなたの後ろ側に靈的事象が存在するように思えて仕方が無いのです。さらにその奇怪な事象は先程から、…と仰いましても十二分かそこらであるのは明白であります。この下品で貧相で愚かな私という存在を卑下するかのように伺い見、そしてさらには私を見つめている為、私という器の精神は既に崩壊し始めています。」

「そうですね。しかし僕にはそのような靈的な悪寒だとか、疲労感だとかのような恐ろしい非化学的現象は一切認知できず、更に言いますと、僕というこの世界で最下層に存在するであろう愚生物はこれまで無駄に生きてきた中で、一度としてそのような無気味な（そうでないにしろ）事象を発見したことはありません。本当です。しかしこの言葉が本当に本当なのかどうか、それを証明するには余白が狭すぎます。」

「そうですね。しかし実際に靈的事象は今現在も私の事を嘗め回し凝視を続けています。あなたの左肩です。そう、左肩の上に存在します。あ、存在するとは言ってもやはり靈的現象ですから、実体はこの場に存在してはいないと思われれます。一刻も早く手を打つべきです。どこかお寺などへ赴き、法外な値段を支払い、撤去すべきだと思いますよ。」

「そうですね。しかし僕にそのような恐ろしい無意味な大金を支払うことは不可能です。あ、支払えないとは言っても、金融業者へと赴き、それ相当の理由を述べ、ある程度の大金を借り受けることは可能です。しかしそれはあまりにも無意味です。なぜなら今現在、僕の肩の上に存在するのは虚空であり、靈的事象等は存在していないからです。」

「そうですね。」

しかしこの文章の中にはひとつ嘘がある。（「しかしこの文章の中にはひとつ嘘がある。」という文章が嘘だという可能性も同時に存在するが、それを証明できないので考えるのは無意味だ。）

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3130y/>

---

無明ヒクチラスウイドワー

2011年11月7日10時03分発行